

施策 9 文化財の保存と活用								
指標 1	【項目】 伝統的建造物の復原等修理費への助成件数				【説明】 川越の町並みを市民や来街者が歩いて体感できるよう実施した伝統的建造物の復原等修理費助成の累計件数			
	単位	現在値 (R1)	実 績 値					目標値 (R7)
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
	件	75	78	82	86	90		93
	担当課評価							
【担当課】 都市景観課								
・進捗は順調です。								
・経過目標程度の修理事業等を計画的に実施しています。								
・令和5年度は蔵造り町家4件の修理事業に助成を行い、外観の保全と安全性の向上を図ることができました。								
指標 2	【項目】 重要伝統的建造物群保存地区の防災に関する活動への参加人数				【説明】 重要伝統的建造物群保存地区及びその付近に整備した防災設備を使用しての防災訓練等の参加人数			
	単位	現在値 (R1)	実 績 値					目標値 (R7)
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
	人／年	35	8	12	59	54		50
	担当課評価							
【担当課】 都市景観課								
・進捗は順調です。								
・昨年度同様、開催内容を工夫したことに加え、一番街通りのテナント店舗にもお知らせを配布するなど周知を徹底したことで、目標値を超える参加がありました。								
・今後は、テナント店舗の従業員や地区のこどもたちの参加率を高められるよう、周知方法や訓練内容を工夫していきます。								
指標 3	【項目】 河越館跡地の史跡公園整備事業進捗率				【説明】 国指定史跡河越館跡の指定範囲内における史跡公園整備事業の進捗率			
	単位	現在値 (R1)	実 績 値					目標値 (R7)
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
	%	30.4	33.4	36.4	36.6	44.6		50.0
	担当課評価							
【担当課】 文化財保護課								
・進捗は順調です。								
・令和5年度は、保存活用計画策定に向けて検討を行いました。また、史跡外の未整備地に敷設する道路用地の発掘調査を行いました。								
・令和6年度は保存活用計画の策定及び史跡外の未整備地の整備事業を進めるため、今後も進捗率が上昇する見込みです。								
指標 4	【項目】 郷土学習を受けた学級数				【説明】 文化財保護課・博物館職員による出前授業とバス利用による博物館内授業を受けた学級数の合計			
	単位	現在値 (R1)	実 績 値					目標値 (R7)
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
	学級	266	74	185	304	279		285
	担当課評価							
【担当課】 文化財保護課 博物館								
・進捗は順調ですが、令和5年度の実績値が令和4年度よりも減少しているため、今後の取組には改善が必要です。 (文化財保護課：5学級、博物館274学級)								
【文化財保護課】								
・学校からの依頼が減少したため、教員等と協議し、より学習効果が高まるよう工夫する必要があります。								
【博物館】								
・令和5年度は、バス利用による博物館内授業の天候不良による一部中止等により、令和4年度よりも実績値が若干減少しました。引き続き、学校と連携し、目標値を達成できるよう努めます。								

施策 9 文化財の保存と活用		総合評価
		A
総合評価について	全体として進捗は順調であり、評価も良好です。 特に指標3の「河越館跡地の史跡公園整備事業進捗率」については、史跡外の未整備地に敷設する道路用地の発掘調査を行うことで、大きく目標値に近づけることができました。今後は保存活用計画の策定及び史跡外の未整備地の整備事業を進め、文化財の保存と活用のための取組を継続します。 指標4の「郷土学習を受けた学級数」については、高い水準を保ってはいますが、昨年度より実績値が減少してしまいました。引き続き、学校と連携し、実績値の向上に努めます。	
学識経験者等 の意見	・ 伝統的建造物の復原等修理費への助成については、昨今の資材単価の高騰もあり、財源負担の問題が大きいと思うが、今後も計画的に実施していただきたい。 ・ 山王塚古墳が国史跡に指定され、このような史跡があることは郷土学習の面でとてもよい。また、地域社会と山王塚古墳の関係からの視点も持って取り組んでいくとよいと考える。 ・ 川越市文化財保存活用地域計画が文化庁に認定されたが、施設、公園の整備、伝統的建造物の保存や民俗芸能といったことを、次世代にどのようにつなげていくかは大きな課題である。今回の計画後のその先さらに5年、10年も見越しながら計画を進めていただきたい。 ・ 文化財の保存と活用にあっても、行政だけでなく地域も一体となって取り組む必要があり、人と人とのつながりは今後のキーワードになってくると考える。次世代にも文化財の大切さや必要性を認識していただくような取組を進めていただきたい。	

【施策】 9 文化財の保存と活用

【施策の柱】 (1)文化財の保存と活用

細 施 策	①文化財の保存と活用			担当課	関連指標
				文化財保護課	—
施 策 の 内 容	・ 貴重な歴史的財産である文化財を後世に残し、伝えるために、文化財の保存に努めるとともに、関係各課と連携し、文化財の価値を生かした活用を積極的に図ります。 ・ 文化財を次代に継承するため、所有者支援の在り方について関係者とともに検討します。 ・ 効率的な試掘・確認調査等の実施により、埋蔵文化財に関する基礎情報の収集に努め、工事関係者との保護調整により、埋蔵文化財の効果的な保存を図ります。 ・ 未指定を含めた文化財について、地域社会とともにその保存・活用を総合的かつ計画的に実行するため、文化財保存活用地域計画を策定します。				
令和5年度の主な実績	・ 埋蔵文化財調査件数 81件（発掘調査件数 4件、試掘調査件数 77件） ・ その他文化財調査件数 22件 ・ 永島家住宅（旧武家屋敷）見学者数 1,811名、教育施設等への埋蔵文化財貸出件数 5件、博物館等での県指定文化財の公開件数 6件 ・ 川越市文化財保存活用地域計画が文化庁より認定（R5.12.15）				
成 果 実 績	項目名（単位）	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
	文化財調査件数（件）	48	29	22	
現 状 ・ 課 題	現状 ・ 令和元年度～4年度は、『川越市の文化財』発刊に向けた既存の指定文化財の確認調査が多かったですが、令和5年度は通常の体制に戻りました。 ・ 埋蔵文化財調査は、民間の開発に伴う試掘調査が多い状況です。 課題 ・ その他文化財調査は、突発的な事案が多いため、優先度を考慮し計画的に調査し、対応していく必要があります。				
課 題 解 決 の ための 取 組	・ 埋蔵文化財調査は、民間の開発計画に合わせて、効率的に調査を実施できるよう委託等の活用を検討します。 ・ その他文化財調査は、「川越市文化財保存活用地域計画」の方針に基づき計画的な調査に努めます。				

細 施 策	②無形民俗文化財の保存と後継者の育成	担当課	関連指標	
		文化財保護課	—	
施 策 の 内 容	・ 地域ぐるみで保存継承する体制の確立を支援します。 ・ 後世に伝えるための後継者育成の取組を積極的に支援します。 ・ 映像や画像による記録を行い、保護団体による文化財の伝承に活用できるよう努めます。			
令和5年度の 主 な 実 績	・ 後継者養成・保存事業実施団体数 16件			
成 果 実 績	項目名（単位）	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	後継者養成事業実施団体数 （件）	12	12	16
現 状 ・ 課 題	現状 ・ コロナ禍により中断していた民俗芸能練習等の活動が再開し、事業の実施団体数がコロナ禍以前の数値に戻りました。 ・ 民俗芸能後継者養成や祭礼行事の保存、用具の保存修理等の事業に対し、保護団体に補助金を交付しました。用具修理に関する相談について、技術的な指導・助言を行いました。			
	課題 ・ 少子高齢化等の影響もあり、地域の伝統行事や民俗芸能の継承が課題です。			
課 題 解 決 の た め の 取 組	・ 民俗芸能の後継者養成、祭礼行事の保存、用具の保存修理のため、補助金に関する情報を収集するとともに、適切に補助金を保護団体へ交付していきます。 ・ 特に、継承が難しくなっている民俗芸能・祭礼行事について、団体への聞き取り調査を継続して実施し、各団体が抱える課題を把握するとともに、対応策を検討していきます。 ・ 平成29年度より実施している無形民俗文化財行事の映像記録保存について、未撮影の行事を優先に、地域の方々と協議しながら進めていきます。			

【施策】 9 文化財の保存と活用
【施策の柱】 (1)文化財の保存と活用

細 施 策	③重要伝統的建造物群保存地区の保存整備事業の充実	担当課	関連指標
		都市景観課	指標1
施 策 の 内 容	・ 伝統的建造物の保存修理等を実施し、あわせて官民連携による保存技術の継承や、担い手の確保と育成等に努めます。 ・ 伝統的建造物の耐震化や自主防災体制の整備に努めます。 その他の関連指標: 指標2		
令和5年度の主な実績	・ 保存修理事業（国庫補助対象）/山崎家住宅店蔵: 木工事・屋根工事・左官工事・塗装工事・板金工事 - 小谷野家住宅店蔵: 木工事・石工事・左官工事・塗装工事 - 平岩・矢萩両家住宅主屋: 木工事・瓦工事・左官工事 - 宮岡家住宅店蔵: 左官工事 ・ 地区の啓発パンフレット作成/伝建地区の建造物MAP・防災ガイド ・ 歴史的建造物の保存技術の継承策の立案に伴うヒアリング調査の実施 ・ 防災訓練支援/川越まつり会館での地元主体の防災訓練の実施		
現 状 ・ 課 題	現状 ・ 伝統的建造物所有者の修理要望の把握及び保存対策調査を計画的に実施したことにより、修理件数累計が想定目標値を上回っており、順調に進捗しています。 ・ 伝統工法の技術継承のために、技術者へのヒアリングを実施し、課題抽出を行っています。 課題 ・ 地区の住民や事業者等が災害発生時に適切な活動ができるよう地域主体による定期的な訓練の実施を支援し、防災意識を醸成する必要があります。		
課 題 解 決 の ための 取 組	・ 保存修理事業を計画的に実施していくため、引き続き伝統的建造物所有者の意向把握や保存対策調査による現状把握に努めます。 ・ 市が交付する補助金の財源を確保するため、文化庁等との連絡調整に努めます。 ・ 歴史的建造物の保存技術の継承策の検討に向けて、引き続き伝統工法の技術を有する技術者や関係団体等を対象としたヒアリング調査を実施します。 ・ 周知方法や開催内容を工夫しながら自治会等を中心とした防災訓練の開催を支援していきます。		

細 施 策	④河越館跡の整備・活用	担当課	関連指標
		文化財保護課	指標3
施 策 の 内 容	・ 郷土学習の場、市民の憩いの場として河越館跡史跡公園等の整備を継続し、市民や自治会等の公共団体、NPO法人、大学等と協働してその有効活用を図ります。		
令和5年度の主な実績	・ 川越市河越館跡整備検討委員会を3回開催し、保存活用計画（素案）の内容を審議 ・ 史跡内を南北に縦断する市道の移設に向け、移設先である史跡外未整備地内道路用地の発掘調査を実施		
現 状 ・ 課 題	現状 ・ 史跡の計画的な保存と活用を図るために、川越市河越館跡整備検討委員会にて保存活用計画の検討をしています。 課題 ・ 史跡外の未整備地の整備事業を遅滞なく実施する必要があります。 ・ 史跡内の未整備地の整備事業を進めるための検討をする必要があります。		
課 題 解 決 の ための 取 組	・ 河越館跡の適切な保存と活用の計画的実施のために、保存活用計画を策定します。 ・ 令和6年度は、河越館跡史跡公園の整備に向けて、史跡外の未整備地の整備事業を進めます。 ・ 令和5年度に策定した「川越市文化財保存活用地域計画」を踏まえ、中長期的なスケジュールも含めて検討します。		

【施策】 9 文化財の保存と活用

【施策の柱】 (1)文化財の保存と活用

細 施 策	⑤山王塚古墳の保護			担当課	関連指標
				文化財保護課	—
施 策 の 内 容	・ 国内で最大規模の上円下方墳である山王塚古墳について、未来に伝えるべき貴重な文化財として国指定史跡とすることを目指し、関係機関と協議を進めていきます。				
令和5年度の 主 な 実 績	・ 山王塚古墳の整備に関することを検討する山王塚古墳整備検討委員会条例の制定 ・ 山王塚古墳調査検討委員会の廃止 ・ 令和5年7月21日、22日に現地見学会の実施				
成 果 実 績	項目名（単位）	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
	山王塚古墳現地説明会等参加者数（名）	21	124	202	
現 状 ・ 課 題	現状 ・ 令和5年3月20日、国史跡に指定されました。現在は川越市で保存管理を行っています。				
	課題 ・ 史跡の保存活用のための取組を計画的に行う必要があります。 ・ 遺構の保存に必要な範囲のうち、地権者、占有者に指定の同意を得られなかった範囲があります。 ・ 史跡の価値・重要性を考えると、山王塚古墳の存在が十分に認知されていない状況にあります。 ・ 現状では大半が民有地であるため、今後土地の公有化が必要です。				
課 題 解 決 の た め の 取 組	・ 山王塚古墳の整備と活用を促進するため、令和6年度に整備検討委員会を設置し、令和7年度に保存活用計画の策定を目指します。 ・ 地権者・占有者が利用している範囲以外については、除草等の環境整備を実施し、史跡の価値を目視できるように努めます。 ・ 国指定へ同意が得られなかった地権者・占有者に対し継続的に説明を行い、同意が得られるよう努めます。 ・ 市民等に対して、国指定史跡の歴史的価値を周知するため、今後も公民館事業等に取り上げてもらうことで、普及啓発に努めます。				

【施策】 9 文化財の保存と活用

【施策の柱】 (2)地域の歴史や伝統文化の継承

細 施 策	①文化財保護意識の啓発	担当課	関連指標	
		文化財保護課	—	
施 策 の 内 容	・ 先人の営みの中で生まれ、大切に護り伝えられてきた文化財の価値と保存の意義について、わかりやすく多くの人に伝え理解を深めてもらうために、文化財保護意識の啓発に努めます。 ・ 埋蔵文化財は、日常生活では目に触れることがない地下に存在することから、その周知を図るとともに、市民の保護意識の醸成に努めます。			
令和5年度の 主 な 実 績	・ 川越市の文化財等を紹介するホームページの更新 ・ 公民館等への講師派遣数 25件 ・ 主催講座実施 令和6年2月3日「遺跡発表会」41名参加 令和6年1月18日、2月1日「たかしな遺産めぐり3」36名参加			
成 果 実 績	項目名（単位）	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	職員を講師として派遣した 件数（件）	11	22	25
現 状 ・ 課 題	現状			
	・ 埋蔵文化財包蔵地は市内360箇所以上に点在しており、所在・範囲を随時更新し、常時窓口で最新の情報を閲覧できるように備えています。 ・ 遺跡発表会を通して市内から出土した遺物に触れる機会を提供したり、フィールドワークを行ったりすることで地域の文化財や歴史文化を身近に感じてもらうなど、主催事業の実施を通して文化財保護意識の啓発に努めています。			
課 題 解 決 の た め の 取 組	課題			
	・ 民間開発に伴う発掘調査成果は、個人資産に関する情報であるため、公開については慎重に検討する必要があります。 ・ 市内各地域に存在する指定文化財等の歴史遺産を啓発するため、公民館等と協力し、市民に向けた講座を継続して実施することが必要です。			
課 題 解 決 の た め の 取 組	・ 発掘調査成果を発信可能と判断した遺跡について、遺跡発表会や見学会を通じて公開します。			
	・ 文化財保護意識の啓発のため、市民向け講座を継続して実施していきます。			

【施策】 9 文化財の保存と活用

【施策の柱】 (2)地域の歴史や伝統文化の継承

細 施 策	②地域の歴史・伝統文化の継承に向けた学びの促進	担当課 文化財保護課・博物館	関連指標 指標4
施策の内容	・児童生徒が地域の歴史・伝統文化への興味・関心を高め、誇りや愛着をもって大切に継承する心を育むため、出前授業及び博物館による積極的な学習の機会の提供を図ります。 ・川越の歴史や文化を守り続けている人々から学び、自分たちの住む「ふるさと川越」を知る機会を創出し、文化を学び育てる取組を推進します。		
令和5年度の主な実績	【文化財保護課】 ・出前授業の実施 5学級 【博物館】 ・学校利用 178学級（小学校3年生:87学級、6年生:91学級） ・出前授業の実施 96学級 ・野外博物館教室の実施 13名 ・古文書講座の実施 延べ134名 ・民俗芸能実演の実施 273名 ・博物館歴史講座の実施 延べ303名 ・講演会の実施 48名		
現状・課題	現状 【文化財保護課】 ・学校からの要請で出前授業の講師として職員を派遣しています。毎年継続的に「川越まつり」に関する要望があり、その結果、内容も充実し、質的に向上していると認識しています。 【博物館】 ・市内小学校における3、6年生の郷土学習としての博物館利用、学校からの依頼による出前授業の講師としての職員派遣を行っています。また、一般向けに川越の歴史・伝統文化に関連した講座・教室等を開催しています。 課題 【文化財保護課】 ・対象となる児童・生徒は毎年異なります。学習効果を高めるためには、事前に教員等と学習の進捗を確認し、内容を協議することが必要です。 ・多くの市民等に川越の歴史・伝統文化について、学びの機会を提供するに当たり、地域との協力体制の構築が求められます。 【博物館】 ・博物館での郷土学習、出前授業を実施する際には、各学校における川越の歴史・伝統文化の学びの内容に配慮して実施する必要があります。 ・一般向けの教室・講座等について、継続的に実施できるよう内容について精査する必要があります。		
課題解決のための取組	【文化財保護課】 ・学校からの要請による出前授業の講師派遣や博物館での学習機会への資料提供に努めます。 ・学校を離れた地域活動に対し、講座等の支援や、これまでの調査に基づく成果等を通じた資料の提供について検討します。 【博物館】 ・学校との連絡調整を密にし、学校における川越の歴史・伝統文化の学びの内容に配慮した学習内容の充実に努めます。 ・事業を継続して実施できるよう、実施内容を整理し、館内職員が協力して事業を推進できる体制づくりを図っていきます。		